

様式第 6 号（第 18 条関係）

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和 7 年 4 月 21 日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大字熊野 591
名 称	木花地域まちづくり推進委員会
代 表 者 の 氏 名	委員長 奥 正幸
電 話 番 号	0985-58-0044

令和 6 年 5 月 10 日付け宮地第 91 号で交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金につきましては、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第 18 条第 1 項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- ① 事業実施報告・収支決算書
- ② 事業別収支計算書
- ③ 宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書
- ④ 地域まちづくり推進委員会備品管理台帳の写し
- ⑤ 地域協議会の意見書

令和6年度 事業実施報告・収支決算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

1 総括

住民の皆様の満足度向上を目標に地域の団体と連携をとり努力してまいりました。
地域における祭りにフォーカスさせ、共働、協力する喜びを感じて頂きました。
引き続き皆様と共に歩んでいけたら満足です。

2 収支決算

(1) 収入の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
地域コミュニティ活動交付金	2,907,000	2,907,000	0	
繰越金	2,042,938	2,042,938	0	
積立金				
負担金	60,000	37,000	5,000	トマト加工体験教室参加費 (1,000円×37名)
		28,000		フラワーアレンジメント教室参 加費 (1,000円×28名)
	137,280	137,280	0	LINE公式アカウント使用料 (本郷まち推、青島まち推 負担分)
雑収入	31	1,355	1,324	銀行利息
その他				
合計(A)	5,147,249	5,153,573	6,324	

(2) 支出の部

分野	事業名	実施年数	予算額	決算額	差額	執行率
防	安全推進事業	11年目	1,275,000	824,865	▲450,135	65%
福	福祉まちづくり事業	11年目	93,000	73,778	▲19,222	79%
環	環境整備事業	12年目	332,600	245,924	▲86,676	74%
環	地域活性化事業	13年目	275,000	230,511	▲44,489	84%
伝	伝統文化継承事業	16年目	60,000	3,060	▲56,940	5%
伝	伝統芸能伝承事業	10年目	126,000	69,308	▲56,692	55%
伝	木花地区ガイドマップツアー事業	6年目	91,000	22,000	▲69,000	24%
再	広報事業	10年目	638,280	535,710	▲102,570	84%
健	木花の健康フェスタ	1年目	1,237,000	696,780	▲540,220	56%
他	地域まちづくり支援事業	8年目	1,019,369	844,055	▲175,314	83%
合計			5,147,249	3,545,991	▲1,601,258	69%

※次年度繰越金 1,607,582円
(内訳 収入決算額 5,153,573円 - 支出決算額 3,545,991円)

3 実施報告

[安全推進部会]

事業名	安全推進事業		実施年数	11年目												
事業期間	開始：2014年度		終了：継続													
地域魅力発信プランとの関連	安心をテーマに安全・安心を築くまちづくりを掲げて ★子供がのびのび暮らせる町：朝夕の見守り、挨拶・声掛け、青パト活動を通して、健やかに育つ木花を目指す。 ★防災意識の高い町：防災への地域間温度差を理解した上で、住民、学校、各種団体を巻き込んだオール木花で防災力の向上を目指す。 ★交通マナーのよい町：歩行者、自転車、車がお互いに配慮し合って事故の無い安全な木花を目指します。 以上を意識し活動を行っています。															
目的 (期待される効果)	木花地域の防災力向上と自衛力向上で、安全でいつまでも住み続けたい環境作りに寄与する。															
事業内容・手段	1. 木花全地域の避難環境の整備事業・・・ ・初動避難時への援助の重要性を認識し、指定避難所開設までの風雨と寒さ対策、トイレの環境整備対策として資機材整備をした。 ・自主防災隊長会は、未実施であり来年度は「木花の防災の日」と連携した講習会、イベントを実施したい。 2. 木花中学校区との連携事業・・・ ・このはな防災塾と連携し、木花中、鏡洲小、学園木花台小で防災講話、防災講座、救命講話・実習を行った。 3. 少年防災研修事業・・・ ・バス利用の研修を夏休み期間での実施を計画したが、猛暑で見送った。 ・青島青少年自然の家主催の2月23日の『わくわく自然の家まつり』に5ブース出展し活動した。今後この活動への協力を積極的に行いたい。 (紙芝居、防災クイズ、新聞紙スリッパ、ロープワーク、ブルーシートテント) 4. 防災意識の啓発・啓蒙事業(学習)・・・ ・防災食の実食体験を実施。 ・「木花の防災の日」に合わせ、各自主防災隊の防災倉庫の資機材の報告と津波避難経路の確認を行った。 5. 安全なまちづくり事業・・・ 応急手当の指導活動(AEDの取り扱い、人形を使用しての人工呼吸法) ・AED・人形を購入し、講習会を12月末現在12回実施し721人受講した。また、「木花の健康フェスタ」に2ブース出展した。 (応急手当指導、災害時テント組立体験) ・4学校に対して家族で「災害に備える：防災対策や話し合い」の標語を募集した。															
事業費	824,865円															
対象者	木花地域住民(まなbosaiの参加者が減少した)															
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年</td><td>令和5年</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>1800人</td><td>1200人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>100人</td><td>100人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1900人</td><td>1300人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ(防災標語応募者含まず)				年 度	令和6年	令和5年	一般参加者	1800人	1200人	スタッフ	100人	100人	合 計	1900人	1300人
年 度	令和6年	令和5年														
一般参加者	1800人	1200人														
スタッフ	100人	100人														
合 計	1900人	1300人														
住民の声(アンケートの結果等)	・南海トラフ関連記事の比重が大きくなっているので、防災・避難関連の事業の推進を是非お願いします。また、安全なまちづくり活動にも力を入れて欲しい。															

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（1）木花全地域の避難環境の整備事業

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり 効果的・取組み 効率的な	①地域ニーズの把握	A	B	木崎地区住民200人相当を対象に指定避難所までの共助行為。(寒さ、雨、プライバシー確保)	広報	⑤事業の周知	A	B	SNS、広報誌を活用し実施している
	②住民の参加	B	B	1次避難所に求められる環境対策の完備に向け数年間を掛ける。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	目的が具体的にになり何をすべきか具体化し進捗させている。
	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	B	行政と連携し推進。中学校、小学校からの要請事項もあり妥当である。		⑦住民の満足度	B	B	全体でなく自治会単位での判断を有効と思う。その中では及第点は得ている。
	④各種団体との連携	A	B	各種団体からの要望を組み入れている。		事業継続の必要性			有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		・200人対応できる環境完備に向け進捗している。今年度は新規に簡易トイレ9基を用意した。水道休止の状態を想定している。 炊き出し用の環境整備も順次実施。 住民には自助、共助、公助の違いを認識してたうえで対応できるようにさせている。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（2）木花中学校区との連携事業

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	各学校の要請・要望の聞き取りを優先し活動している。継続中	広報	⑤事業の周知	B	B	範囲が限定的なのでその上では満足度は高い。SNSも利用し告知させてみる。
	②住民の参加	A	B	学校単位、学年単位での活動が主である。学校の協力を得て感想を聞ける環境作りを検討する。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	避難訓練後の意見交換のほか、防災標語募集などを仕掛け複合的に活動している。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	安全推進部会と防災塾間で相互に連携することが重要で、今の状態は妥当といえる。		⑦住民の満足度		A	B
	④各種団体との連携	A	A	各学校と連携し、解決必要な問題を聞き取り、意見交換を重ねて行うように心掛けた。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		・子供たちと、災害の種類を勉強し、それに適合した避難行動がある事を説明したことで、理解度、認知度が上がったことが確認できた。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（3）少年防災研修事業

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	小学校、地域施設からの要望に対応し活動している。	広報	⑤事業の周知	A	B	主催団体と、まち推の書面での回覧、掲示、SNSによって行っている。
	②住民の参加	B	B	児童中心事業であり限定的。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	人とのつながり、顔見知りであることが重要であり、活動内容の周知・宣伝を行っていく必要性を感じている。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	対象者が具体的であり、妥当と考える。		⑦住民の満足度	B	B	子供達からの感想文を読ませていただく中では、高いと思うが慢心注意
	④各種団体との連携	A	A	各種団体からの出張要望によって活動し、児童センター・4つの学校、自治会と連携した。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 簡易テント、ロープワーク、新聞紙でのスリッパ作成、ホットタオルの有効利用 防災クイズ、外所地震の紙芝居など、日頃から取り組んでいた事を、自然の家主催の「わくわく自然の家まつり」で実施できたことで、子供達に喜んでいただいたことが良かった。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（4）防災意識の啓発・啓蒙事業

		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	「木花の防災の日」を機に自主防災隊単位で実態調査を実施。今後に反映させる。	広報	⑤事業の周知	B	B	小、中学校から保護者への文書配布により活動が周知されている。
	②住民の参加	B	B	身近な事とし防災食の体験食事会を実施。興味への拡散を図りたい。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	事業の認識度向上への作用として、出前講座を基礎に浸透を図ってゆきたい。
效果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	防災への意識付けへのきっかけ作りの提供であり妥当と思えます。		⑦住民の満足度	B	A	自主防災隊への防災講座、研修など頻度、レベルを上げたい。
	④各種団体との連携	A	A	各種団体からの要望で実施なので連携していると判断できる。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		木花の防災の日を機に自主防災隊への啓発に繋がる活動になったと言える。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（5）安全なまちづくり事業

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	救急救命（AED）実施の要望が多くでて5回開催。	広報	⑤事業の周知	B	B	学校内、自治会内への文書配布によって周知はされている。
	②住民の参加	A	A	自治会等からの要望に基づき実施し、多くの参加を得て救命意識の向上に役立った。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	自助、共助の観点からも活動範囲を広めて実施していきたい。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の安全な環境作りのため、学校、自治会、家庭での実施意義は大きく妥当といえる。		⑦住民の満足度	B	A	参加者の積極的な姿勢から高かったと思う。標語の募集も継続事業として浸透した。
	④各種団体との連携	B	B	今後も、自治会・自主防災隊との連携は必要と思える。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		・応急処置についての実施依頼が予想以上に多く、地域（自治会、公民館）活動の常態化の必要性を感じた。 ・「木花の健康フェスタ」の講習体験会に対しての住民の積極的参加には驚かされた。更なるPRを行いたい。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和7年2月・実施報告）＞					対応	未・済	
		避難場所への表示板など地域への積極的活動は評価できるが、地域に対してどこにその場所を確保している事への報告、認知を行って欲しい。							
		＜意見への対応＞							
		・現状の環境確認は完了し問題ないと判断できた。地図で示す予定で活動中來年度前半にはお示し出来る予定です。							
		＜地域協議会からの意見（令和年月・）＞					対応	未・済	
＜意見への対応＞									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	福祉まちづくり事業	実施年数	11年目
事業期間	開始： 2014年度	終了： 継続	
地域魅力発信 プランとの関連	福祉をテーマに、笑顔で優しさあふれるまちづくりを掲げて ★子供を安心して育てられるまち・・・ 若い世代が住み、子育てがしやすい環境は女性や高齢者にとっても優しいまちです。隣近所が仲良くし、地域みんなで子育てを助け合う人情味溢れる木花を目指します。 ★三世代にわたって住めるまち・・・ どの世代もそれぞれを思いやることのできる地域づくりをし、家族を大切にする木花を目指します。人テーマ ★人材（財）がいきるまち・・・ 得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でO.K.です。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。 ★女性力を活かし輝くまち・・・ 女性がさらにいきいきと活動し、より輝いていく木花を目指します。 以上を意識し活動を行っています。		
目的 (期待される効果)	1 すべての住民が、住み慣れた地域で共に支え合い健やかで安全に生活できる環境を作る。 2 講演会を通して、住民の健康に対する予防及び援助の知識を深める。 3 地域全体で認知症にやさしいまちづくりを目指す。 4 地域の財産である児童への教育応援を実施する環境を提供する。		
事業内容・手段	1 生きがい支援活動 鏡洲上下自治会 日時:12月6日 場所:鏡洲上下区自治会の屋外4カ所 37名 下原しゃべろう会 日時:12月14日 場所:下原公民館 14名 南3丁目元気じゃろ会 日時:2月8日 場所:学園木花台自治公民館 25名 3回ともに内容:健幸体操、介護予防、フレイル予防の学習 連携:木花青島地域包括支援センター、福祉施設職員、キッチンカー 2 認知症見守り声かけ模擬訓練 日時:6月16日 場所:今江公民館 28名 内容:福祉施設専門職員が認知症の講話を実施し、その後地域に出て声かけの実地体験した。 連携:今江自治会、宮崎市職員、木花・青島地域包括支援センター、福祉施設職員等 3 いきいき健康セミナー 加江田3区自治会 日時:6月8日 場所:加江田公民館 10名 木崎上自治会 日時:9月19日 場所:木崎2自治公民館 15名 2回ともに内容:理学療法士の先生に生活習慣病や健康的な日常生活についての講義を受ける。		

事業内容・手段	4 ノルディックウォーキング ① 時 期：9月29日11名 コース：運動公園に集合し、公園内津波避難高台→外所大地震供養碑→西教寺井上真改→秋葉神社3.5km ② 時 期：12月15日10名 木花公園に集合後→木花神社・桜川→西教寺・井上真改→平賀快然→日向古道「くま駅」3.5km 以上2回共に下記内容 内 容：文化部会のメンバーに名所・旧跡・偉人の案内をやってもらいながら歩いた。コースの長さ、案内時間も丁度よく好評であった。 5 園児との楽笑会 時 期：1, 2月 場 所：地域内の4園すべてで実施 内 容：園児、先生達と一緒にMAGICを楽しみました。先生達のMAGICの腕も上がってきています。															
事業費	73,778円															
対象者	木花地域住民															
		<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>188人</td><td>166人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>54人</td><td>42人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>242人</td><td>208人</td></tr></table>	年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	188人	166人	スタッフ	54人	42人	合 計	242人	208人		
年 度	令和6年度	令和5年度														
一般参加者	188人	166人														
スタッフ	54人	42人														
合 計	242人	208人														
	※事業内容に応じて男女別や年代別データ															
住民の声（アンケートの結果等）	ノルディックウォーキングをしながら地域の名所・旧跡・偉人の説明を受け新たな発見が来た事。コースの長さ、案内時間も丁度よく非常に楽しかった。															

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

1. 生きがい支援活動

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	高齢者の引きこもり対策として計画し実施した。	広報	⑤事業の周知	A	B	計画地区では、事前準備から周到であった。今後は木花全体に広げたい。
	②住民の参加	A	A	民生児童委員、福祉協力員が事前に周知した為、参加者が多かった。			事業の効果	⑥課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まち推が旗振り役を行い、各関連団体を巻き込み参加できたことから妥当といえる。		⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	A	A	民生児童委員、福祉協力員、自治会、地域包括、福祉施設、キッチンカーと連携した。			事業継続の必要性		
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		・主催サイドが各種団体と連携する事を前提として実施している。このこと自体が地域のきずなを実証している感じがする。これをヒントに広がり期待したい。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 2. 認知症見守り声かけ模擬訓練

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	自治会、民生児童委員の共催で行った。地域主体の実施であり地域ニーズを感じた。	広報	⑤事業の周知	B	B	参加者の単位が自治会なので、実施への告知は安易。横展開は期待できない。	
	②住民の参加	B	B	定期的に活動してるサークルで展開し、31名参加			A	A	実施する自治会の責任者との目的・効果の共有化が重要。	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自治会単位で実施しているが、関係団体が参加している事から妥当である。	事業の効果	⑦住民の満足度	A	A	認知症に対する知識を知り、対応方法を教えてもらい満足である。	
	④各種団体との連携	A	A	民生児童委員、自治会、地域包括、認知症地域支援推進員、福祉施設を連携した。			事業継続の必要性			有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 一昨年度は下原公民館で24名の参加で実施。昨年度は南3自治会員を対象に31名の参加で実施。今年度は今江公民館で28名の参加となった。 木花青島地域包括支援センター職員から認知症についての講義、福祉施設職員から見守り声掛けの方法を学び、実地体験ができた。参加者から満足感を得られたとの感想をいただいた。								

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 3. いきいき健康セミナー

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	日常生活で高齢者が活き活きと活動できる知識が付くように計画実施した。	広報	⑤事業の周知	B	B	自治会単位での開催なので安易。横展開への期待はできない
	②住民の参加	A	B	自治会主導で開催。今江自治会で実施。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	実施する担当者と先生とで進め方の共有化が重要。
効果的・組 み・効 率的な取 組	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自治会単位のサロン活動で実施しているが、関係者が参加している事から妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	自治会長の呼びかけ次第で変化する。事前準備が重要。また定着させることも重要。
	④各種団体との連携	A	A	民生児童委員、自治会、福祉施設職員と連携した。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 6月に加江田公民館で10名で実施。9月に木崎2自治公民館で15名で実施。理学療法士の先生から健康的な日常生活を過ごす為の講義を受講。今後も、健康状態の維持、促進には、部会として積極的に取り組んでいきます。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 4. ノルディックウォーキングの練習会

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	住民の健康志向のニーズと地域観光への興味はある。	広報	⑤事業の周知	B	B	現在は、コース設計中。対象者に合わせ展開し周知したい。
	②住民の参加	B	B	福祉・健康部会員が参加しての実施。地域へ浸透させたい。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・取組み・効率的	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	初の試みを部員として経験し、今後の参考に致します。	事業の効果		⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	木花社協より道具を借り、福祉施設や文化部との連携で実施しました。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		・9月が運動公園発着の新ルート、12月開催では前年同様のルートで実施し、時期が良く時間配分も配慮されていた。最後の木花公園へのアプローチをう回路から階段に変更できる余力を残して完了できました。 参加11名、10名の参加者で2回実施できたことに満足し更なる効果が出るようにしたい。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 5. 園児との楽笑会

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民 づくり 主体の まち	①地域ニーズの把握	A	A	園児が、地域の大人と接する機会を設け、視野を広げてもらいたい。	広報 事業の 効果	⑤事業の周知	B	B	各園主導なので園単位である。	
	②住民の参加	B	B	保育園の理解の上で協力し実施した。		⑥課題解決への作用	B	B	園児限定事業として、振り返りを行い推進したい。	
効果的・ 取組み 率	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	小学校入学前の児童への地域の環境認識を得る機会を提案でき妥当と思う。		⑦住民の満足度	B	B	住民への波及効果はないが、家族への満足度は得られた。	
	④各種団体との連携	A	A	現在は、園との関係のみで限定的だがこれが丁度よい。		事業継続の必要性				有・無
良かった点・ 改善点等		<良かった点や改善した点等>								
		・園児の視野を広げる貴重な機会として今後も継続させたい。現在の核家族化への弊害予防として機能している。								
地域協議会からの 意見への対応		<地域協議会からの意見（令和6年3月/事業実施報告）>						対応	未・済	
		・意見無し								
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	環境整備事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：2013年度	終了：継続													
地域魅力発信プランとの関連	環境をテーマに自然環境を守るまちづくりを掲げて ★四季折々の自然を楽しむまち・・・ 雄大な太平洋に面し、山々は常に緑をたたえ、3つの川は水辺の生き物の宝庫です。この自然の宝物を大切に、そしてより輝かせていく木花を目指します。 ★環境美化をすすめるまち・・・ ゴミのないまちは、皆がルールを守っている証です。防犯、防災、減災にもつながる環境美化に取り組む木花を目指します。 以上を意識し活動を行っています。														
目的 (期待される効果)	木花地域の自然や施設の整備を行うとともに、木花地域の環境について多くの人に知ってもらうことを目的とする事業を計画し実施する。														
事業内容・手段	1 里山環境整備事業 場所 木花公園、好隣梅、等 内容 木花公園から権現山公園間の遊歩道の整備実施（12月）、好隣梅の草刈り実施（8月）、コスモスの種まき：鏡洲丸野地区実施（9月）、加江田内山地区（9月）今江地区（9月） 2 知福川への鮎の稚魚の放流 （1）期日 令和6年6月1日（土）事前の整備活動を5月28日（火）に実施 （2）場所 知福川 （3）内容 知福川への鮎の稚魚放流 （4）参加者 加江田保育園と加江田1区の住民他														
事業費	245,924円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>72人</td><td>35人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>67人</td><td>45人</td></tr><tr><td>合計</td><td>139人</td><td>80人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	72人	35人	スタッフ	67人	45人	合計	139人	80人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	72人	35人													
スタッフ	67人	45人													
合計	139人	80人													
住民の声（アンケートの結果等）	自治会・公民館の要望を基に行っている事業であり、木花公園から権現山周辺整備、好隣梅の周辺整備、コスモスの種まきに対してそれぞれの自治会・公民館と共に運営でき感謝された。														

1 里山環境整備事業

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域の要望によって実施している。内山地区の種まき場所を外部からの見通しの利く所に変更しました。	広報	⑤事業の周知	B	B	地域限定の色が濃い。周辺への周知はしていない。終了後に作業看板を設置し、SNSでの報告もしている。
	②住民の参加	A	A	自治会が主導し部会がバックアップし実施している。参加者が増加している	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	住民参加型への拘り事業である。参加者の募集は常に実施している。
取組み・効果的・効率的な	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	継続出来ている事からも妥当と思う。		⑦住民の満足度	B	B	地元自治会の働きかけ次第で参加者を増やせる余地を感じる。
	④各種団体との連携	A	A	市、知福川保全会や地元自治会、振興会と共働している。	事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		地元の自治会、公民館をメインにし、親子の参加ができるように誘導している。また、コスモスの開花まで追跡して写真にしている人を良く見かけたので、イベントとして好感度は高いと思える。部会としては、種まき場所の拡大を目指している。							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）2. 知福川への鮎放流

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	流れが緩い知福川で安全優先に活動している。自然の豊かさを体感してもらっている。	広報	⑤事業の周知	B	B	地域に限定している。SNSを活用して広げたい。広報誌で活動報告はしている。
	②住民の参加	B	B	近所の加江田保育園児とその親を中心に行っているが、地域に対してSNSで発信したところ木花台からの参加者がいた。			B	B	自然体感型イベントでその方向で広がりを持たせたい。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自然環境の豊かさを体感して、保全活動や健康維持への動機付けも期待できる。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	自然体感型イベントでその方向で広がりを持たせたい。
	④各種団体との連携	A	A	加江田保育園や宮崎自然休養村のスタッフ、振興会との連携なくしてはできない。			B	B	家族間交流の場にもなっている。イベントの質には問題ないように思える。
					事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 自然相手の活動なので、天気の影響があっても開催する方針で行っている。今年度会場周辺の堤防の整備を行ったので、対象者を幅広く広げて行きこの周辺の良さを体感して欲しい。							

事業名	地域活性化事業	実施年数	13年目												
事業期間	開始：2012年度	終了：継続													
地域魅力発信 プランとの関連	環境をテーマに自然環境を守るまちづくりを掲げて ★四季折々の自然を楽しむまち・・・ 雄大な太平洋に面し、山々は常に緑をたたえ、3つの川は水辺の生き物の宝庫です。この自然の宝物を大切に、そしてより輝かせていく木花を目指します。 ★地域資源を活かし、人が育ちつながるまち・・・ 地元の農産品を活用して、地元自慢ができ、女性力を活かして輝くまちづくりを目指します。 地域を巻き込むイベントを行い、交流を活発にさせるよう目指します。 以上を意識し活動を行っています。														
目的 (期待される効果)	木花の地域資源を活用して世代間、地域間の交流の機会を増やして、木花地域への興味及び関心を高め、地域の活性化を図る。														
事業内容・手段	1 加江田溪谷ウォーキング 場所 丸野駐車場から加江田溪谷の往復（10月に参加者3人で実施） 2 農産物加工体験（2回開催） ・内容 トマト加工し、ミートソース、ピューレ、ジャム作り 場所 清武農産物加工センター(38人) ・内容 フラワーアレンジメント（2月27日実施） 場所 木花公民館（28人） 3 地域活性化プロジェクト（えれこっちゃド鏡洲131人、ウッドアート体験4か所合計122人） 今年度は、全て実施出来ました。 ・内容 地域内の活性化を図る為、関係団体と共同でイベントを開催する。														
事業費	230,511円														
対象者	宮崎市及び近隣市町住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度（見込み）</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>277人</td><td>256人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>49人</td><td>50人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>326人</td><td>306人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度（見込み）	令和5年度	一般参加者	277人	256人	スタッフ	49人	50人	合 計	326人	306人
年 度	令和6年度（見込み）	令和5年度													
一般参加者	277人	256人													
スタッフ	49人	50人													
合 計	326人	306人													
住民の声（アンケートの結果等）	トマト加工、フラワーアレンジメントに関しては、地元農家の材料を使い安全・安心が確認できる事が素晴らしい。開催頻度を増やして欲しい。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）1. 加江田溪谷ウォーキング

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	縦走を計画するが、自然災害でルート不全で実施変更している。実現したい。	広報	⑤事業の周知	B	B	次年度より「South Coast 情報ひろば」を有効に活用する。
	②住民の参加	B	B	マニアックな部分がありトレッキング経験者が対象となるが、双石山人気と重なり期待度は高く感じる。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	台風での被害、天気など自然相手の事業だから実施できた時の喜びを実感した。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	まち推の人脈無くしては実現は難しい。よって妥当。		⑦住民の満足度	B	B	期待度のみが優先され実施できれば満足度に代わると思う。
	④各種団体との連携	B	B	加江田溪谷の会、自然休養林保護管理協議会、登山協会と連携する。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞			本来は、人気がある椿山山頂から加江田溪谷経由、丸野駐車場のルートでの実施である。このルートは、雨による崩落などでできなかったのが加江田溪谷散策とした。縦走コースでの実施要望はあるが安全性を加味すると実現する可能性が低いので今後改善したい。				

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 2. 農産物加工体験

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	トマト加工施設の人数制限を受けていますので予約制で実施していますが、すぐに満員となっています。		広報	⑤事業の周知	B	B	自治会回覧と掲示板掲示とSNSを活用して実施している。参加希望者数より現状で十分。
	②住民の参加	A	A	2事業とも極めて積極的な参加状態です。数次での開催をするべきか？悩んでいます。				事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地場産業応援事業と地場産業への理解度向上が目標であり妥当です。			⑦住民の満足度			B
	④各種団体との連携	B	B	現在は、トマト加工農家や花作り農家と連携している。柔軟に考えている。		事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>								
		地産品を意識して自慢できるように、イベント数を増やししながら今後も貢献していきたい。事業告知チラシの表現方法をできるだけ面白くして興味を引くようにし、新規参加者が増えると更に面白い展開になりそう。今年度から2回の開催にし日程の面で住民のニーズの答えられたと思う。								

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 3. 地域活性化プロジェクト

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前々年度				本年度	前々年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	学校と地域一体型イベントとなっていますので、重要と認識しています。	広報	⑤事業の周知	B	B	広報誌、回覧板、掲示板の活用を主にやっている。
	②住民の参加	A	A	対象者が具体的に絞り込んでいる。要求事項も双方理解して進めている。よって参加意識は高い		⑥課題解決への作用	B	B	今後、準備から支度練習などで自己完結している。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の大きな松ぼっくりやどんぐりを活用しものづくりへ興味を引いてもらう効果を盛り込んだ行事で妥当。		事業の効果	⑦住民の満足度	B	B
	④各種団体との連携	A	A	自治会、振興会、木花福祉会との連携のケースが多々ある。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		えれこっちやド鏡洲は、鏡洲小学生の学習発表と住民参加型で6コマの演舞を披露した。今年度は単独開催となったので、ふるまいを行い住民をもてなすことができた。フォトコンテストを実施し地域への関心を持っていただく機会となったと思う。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和5年3月・事業計画）＞						対応	未・済
		・まち推と地域の協働で、各地区の一室（いちたから）運動を展開してはどうか。							
		＜意見への対応＞							
		・まさに、一室運動を展開している意識で推進しています。						対応	未・済
		＜地域協議会からの意見（令和6年3月・事業実施報告）＞							
		・意見無し							
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	伝統文化継承事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：2009年度	終了：継続													
地域魅力発信プランとの関連	文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて ★地域の伝統文化を守り育てるまち・・・ 木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや、郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文化の担い手を育てることで郷土の歴史や文化を支えていく木花を目指します。 ★木花の宝を発信するまち・・・ 木花には地域内外の人にまだ知られていない宝があります。それらの情報を様々な媒体で発信することは、宝の保全にも有効です。木花の宝を多くの人に知ってもらう活動に取り組み、発信力のある木花を目指します。 以上を意識して活動を行っています。														
目的 (期待される効果)	・木花の偉人、名所旧跡、文化財等に関する標柱・案内板等の維持管理 ・木花地域の文化遺産を次世代へ継承する。														
事業内容・手段	1. 名所旧跡の標柱・案内板の維持・管理活動 (1) 期間：令和6年4月～令和7年3月 (2) 場所：木花各地区 (3) 活動状況 ①各標柱・案内板の清掃と点検を行った。現時点では建て替え更新を要するまでの物はない。腐食が著しい「元伊勢」は撤去する方針。「椿山」に関しては、来期に撤去の最終判断する。 ②案内板の印字劣化 2. 地域小学校からの「昔のあそび等」の指導要請は、1月実施の予定が鏡洲振興会対応に変更された。														
事業費	3,060円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>1人</td><td>0人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>10人</td><td>13人</td></tr><tr><td>合計</td><td>11人</td><td>13人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	1人	0人	スタッフ	10人	13人	合計	11人	13人
年度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	1人	0人													
スタッフ	10人	13人													
合計	11人	13人													
住民の声 (アンケートの結果等)	1. 権現山公園および公園から俯瞰できる正蓮寺平野についての案内板は、この地を実際にガイドする者や、される者、双方にとっても共通の案内ガイドツールとしても利用され有効な物としてよく利用されている。 2. 去年に引き続き、鏡洲小学校から全校児童を対象とした「手作りおもちゃ体験学習」を予定していたが、今年度は内容を変更し「鏡洲振興会」対応でのイベントになりました。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	・案内板は地域住民代表の意見を反映するような内容とした。	広報	⑤事業の周知	B	B	広報誌の掲載。回覧板の運用。
	②住民の参加	A	A	・案内板の内容には説明文のみならず、案内対象のレイアウト上の位置や写真表示・カラー化等による見える化に努めた。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域住民の要望に対応できた。			⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	自治会、地域住民と連携し推進している。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
		・案内板は説明文だけではなく、案内対象の公園レイアウト上での位置表示や絵図・写真表示をできるだけカラー化するなどの工夫により「見える化」に努めるようにしてきました。 ・「標柱・案内板」の点検・清掃等管理の主担当者を決めて責任ある活動が実施できましたが、他の部会も設置してきた案内板の数を考慮するとメンテナイスの方法などを検討する必要がある。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見書（令和6年3月/事業実施報告）＞					対応	未・済	
		・県指定史跡である木花古墳群について何か活動ができないか。検討して欲しい。							
		＜意見への対応＞ ・宮崎市と木花古墳について話し合いをした。市の説明は宮崎の古墳群の本を作成した中に木花の古墳の案内をしているとの事。本の内容をまちづくりとして市民へいろいろなイベントでPRして行く。 地域は地域で住民への案内展開をして欲しいと思っている。							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	伝統芸能伝承事業		実施年数	10年目																									
事業期間	開始：2015年度		終了：継続																										
地域魅力発信 プランとの関連	文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて ★地域の伝統文化を守り育てるまち・・・ 木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや、郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文化の担い手を育てることで郷土の歴史や文化を支えていく木花を目指します。 ★木花の宝を発信するまち・・・ 木花には地域内外の人にまだ知られていない宝があります。それらの情報を様々な媒体で発信することは、宝の保全にも有効です。木花の宝を多くの人に知ってもらう活動に取り組み、発信力のある木花を目指します。 以上を意識して活動を行っています。																												
目的 (期待される効果)	伝統芸能である「木花相撲踊り」及び「下原の雨太鼓」の保存及び後継者育成の取組推進																												
事業内容・手段	1. 「木花相撲踊り」の伝承（披露）、後継者育成に取り組んだ。 (1) 期間 令和6年4月～令和7年3月 (2) 場所 木花小学校、学園木花台小学校、第1回「木花の健康フェスタ」 (3) 内容① 6月15日木花小で「相撲踊り同好会」の発足式開催（相撲踊り伝承の一環） 以後、継続的に月次・週次の指導会を行い、生徒たちのスキルアップに努めた。 ② 同じく6月には学園木花台小においても3年生を対象に相撲踊り指導会を行い、秋の運動会に向け生徒たちに精力的に指導を行ないました。 ③ 「健康フェスタ」で踊りを披露をして、参加者からの拍手喝采を浴びました。 2. 「下原雨太鼓」の伝承（披露） 今年こそ初のイベントでの披露を目指し練習会を1月までに11回行いました。 会員がなかなか集まらない中、木花相撲踊り保存会の強力メンバー2人をメンバーにし、楽譜の見直しを行い、太鼓と鉦の演奏リズムを4拍子を基本にリニューアルした。 この結果、皆のリズムが合致し易くなった。また、児童センターが子供に呼掛けをし合同練習会を実施した。法被も用意し目標を11月3日の文化祭での初披露を目指し練習に励みましたが悪天候のために開催中止。次年度の楽しみとなりました。																												
事業費	69,308円																												
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td colspan="2">令和6年度</td><td colspan="2">令和5年度</td></tr><tr><td></td><td>相撲</td><td>雨太鼓</td><td>相撲</td><td>雨太鼓</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>940人</td><td>24人</td><td>937人</td><td>24人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>220人</td><td>61人</td><td>218人</td><td>60人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1160人</td><td>85人</td><td>1155人</td><td>84人</td></tr></table>				年 度	令和6年度		令和5年度			相撲	雨太鼓	相撲	雨太鼓	一般参加者	940人	24人	937人	24人	スタッフ	220人	61人	218人	60人	合 計	1160人	85人	1155人	84人
年 度	令和6年度		令和5年度																										
	相撲	雨太鼓	相撲	雨太鼓																									
一般参加者	940人	24人	937人	24人																									
スタッフ	220人	61人	218人	60人																									
合 計	1160人	85人	1155人	84人																									
住民の声（アンケートの結果等）	・木花小学校での定期的な相撲踊り同好会指導はコロナ禍中、明け後も好評であり、充実した指導ができた。学園木花台小学校においても、秋の運動会での子供たちによる相撲踊りの披露を目指して、集中指導を行い好評であった。																												

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	相撲踊りの認知度高く、木花小や学園木花台小でも、運動会での生徒による相撲踊り披露のための指導要請があり、積極的に対応した。また「木花の健康フェスタ」も開催され披露できた。	広報 事業の効果	⑤事業の周知	B	B	自治会のネットワークを利用し参加者募集を定期的に行っている。	
	②住民の参加	A	A	木花小同好会および学園木花台小で充実した指導ができた。指導した生徒達からも非常に好評で演奏したい楽器に多くの希望があり人数制限を掛ける程であった。		⑥課題解決への作用	B	B	下原雨太鼓では、母体となる地区住民の参加者が少ない。このことが継続課題となっている。	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	木花小学校では同好会活動として、学園木花台小学校では運動会でのお披露目を目的として長期に渡る指導を行い、後継者育成にも頑張っている。		⑦住民の満足度	A	B	相撲踊りでは、保存会へ若手の参加者が増えたことが、継承に向けて良い材料となってきた。	
	④各種団体との連携	A	A	コロナ禍を過ぎ、市や公民館の文化祭などでのイベントに協力している。	事業継続の必要性				有・無	
良かった点・改善点等					＜良かった点や改善した点等＞					
					・相撲踊りは木花小学校での定期的な月次・週次の指導会が毎年行われるようになった。さらに、学園木花台小学校でも秋の運動会での生徒たちによる相撲踊りの披露を目指して精力的な指導会（相撲踊りスタッフ多数参加）が行われ、非常に好評であった。新規イベントであった「木花の健康フェスタ」では若手メンバーを含む熟練の踊りを披露し好評であった。 ・下原雨太鼓については、相撲踊りの中心メンバーの練習参加もあり、練習会では和気あいあいとした雰囲気の中で、太鼓と鉦を持ち楽しく演じることができるようになってきた。練習会を盛り上げた事により、会員の士気が揚がり練習の雰囲気も次第に上がってきた。そのような中、昨年から児童センターから子供たちに指導の要望があり実施した。木花文化祭に出演エントリーしたがイベント中止と成り来年に持ち越し。					
地域協議会からの意見への対応					＜地域協議会からの意見書（令和6年3月/事業実施報告）＞				対応	未・済
					・伝統文化に対して物品を購入する以外の支援のあり方を検討して欲しい。					
					＜意見への対応＞ ・発表の場を提供できるように検討しています。また、児童センターでの雨太鼓指導を積極的に行っています。					
									対応	未・済
					＜意見への対応＞					

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	木花地区ガイドマップツアー事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始：2019年度	終了：継続													
地域魅力発信プランとの関連	文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて ★地域の伝統文化を守り育てるまち・・・ 木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや、郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文化の担い手を育てることで郷土の歴史や文化を支えていく木花を目指します。 ★木花の宝を発信するまち・・・ 木花には地域内外の人にまだ知られていない宝があります。それらの情報を様々な媒体で発信することは、宝の保全にも有効です。木花の宝を多くの人に知ってもらう活動に取り組み、発信力のある木花を目指します。 以上を意識して活動を行っています。														
目的 (期待される効果)	既に発行済みの、木花の先人や名所旧跡・伝統芸能等の説明・案内書となる“木花「まち歩きガイド」”を利用し、「史跡めぐりツアー」を企画、あるいは地域のニーズに応じて、案内ガイドを積極的に行い、広く木花の文化遺産を知ってもらう。														
事業内容・手段	1. 木花のまちに点在する‘名所旧跡・記念碑’を木花「まち歩きガイド」ブックをベースに、文化部会員がガイド案内を実施する活動を行いました。 (1) 学園木花台小学校から3年生の総合的な学習に木花地域について知る活動を進めている現地見学での案内ガイドと座学対応への協力要請があり次のように対応しました。 ①6月：現地見学では、木花神社を始め無戸室→霊泉桜川→法満寺石塔群→阿弥陀如来像→戦没者慰霊碑→権現山公園から正蓮寺平野・運動公園・青島・徳蘇山系などの案内。 ②7月：座学を実施。「まち歩きガイド」をベースに作成した資料を基に2時間の講話を行いました。今回は「外所地震」について、紙芝居を含めて説明した。 今期はBコースを設け「外所地震コース」として、都合9回実施した (2) 文化部と福祉健康部会との合同ノルディックウォーキングを行いました。 ①9月：外所地震コースとして、運動公園の避難高台から出発し→外所大地震追悼供養碑→西教寺→井上真改→秋葉神社→運動公園の戻るコースで実施した。 ②12月：木花公園コースとして、権現山（木花神社→無戸室→阿弥陀如来像→霊泉桜川）→西教寺→井上真改→平賀改然→古代官道→木花公園に戻るコースで実施した。 (3) 12月：学園木花台南1丁目自治会住民に権現山限定のガイドツアーを募集し実施した。 (4) 9月：朝日新聞社から外所地震についての取材協力要請があり対応した。 取材は、質問への説明と現場案内であった。 ①外所地震の概況と被害状況に関して ②広報誌このはな17号に掲載した地震後の日向元禄絵図と正蓮寺平野の干拓 ③外所大地震追悼供養碑に彫られている文言について ④島山地区の津波避難タワーについて ⑤R6年8月8日発生の日向灘地震と南海トラフ地震臨時情報から私たちはどんな教訓を得るべきでしょうか？														
事業費	22,000円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>139人</td><td>67人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>18人</td><td>42人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>157人</td><td>109人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	139人	67人	スタッフ	18人	42人	合 計	157人	109人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	139人	67人													
スタッフ	18人	42人													
合 計	157人	109人													
住民の声（アンケートの結果等）	・学園木花台小学生の声： ①木花の文化や歴史を詳しく教えてもらいとても役に立った ②外所大地震のことがとても心に残った ・合同ツアー参加者の声： ①知らないことが多くとても勉強になった ②説明の時間も丁度よく、分かり易かった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	名所・旧跡については、隠れたポイントも多々あり「まち歩きガイド」の更新を行い新情報の提供を継続させ、興味の維持、発展につなげたい	広報	⑤事業の周知	B	B	木花「まち歩きガイド」をもっと衆知・利用する環境の必要性あり。
	②住民の参加	B	B	住民の参加がまだまだ少ない。住民参加型の活動につなげたい	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	部員が得意分野での解説委員に成長することが不可欠であり生きがいとなろう。
効果的・取組み・効率的な	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	「まち歩きガイドブックの完成と住民への配布が2018年9月であった。この活用方法と率の向上が望まれる。」		⑦住民の満足度	A	一	対外的なツアーを実現させたうえでの評価。
	④各種団体との連携	A	A	自治会・文化懇談会等との連携を行っている。今以上の積極的参加が望まれる。		事業継続の必要性			有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・良かった点としては、 学園木花台小学校で「まち歩きガイド」のプレゼンテーションの一環として、「外所地震」に関する説明に時間をかけこども達にインパクトが残せた事。 ・改善点としては、 点在するガイドが行う案内コースに関する移動手段の十分な検討を要する事。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見書（令和6年3月/事業実施報告）＞					対応	未 ・ 済	
		・意見無し							
		＜意見への対応＞							
		＜地域協議会からの意見書（ ）＞					対応	未 ・ 済	
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[企画・広報部会]

事業名	広報事業	実施年数	10年目												
事業期間	開始：2015年度	終了：継続													
地域魅力発信 プランとの関連	ひとをテーマに人が育ちつながるまちづくりを掲げて ★人材（財）が活きるまち・・・ 得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でOKです。それぞれの人材（財）がいきいきと活動できる木花を目指します。 ★地域の催しを応援するまち・・・ 催しを地域全体で応援することは、人材を育成することにもつながります。子供から高齢者まで誰もが楽しめる地域の催しを応援してゆく木花を目指します。 ★情報を共有するまち・・・ 木花地区自治会連合会、その他各種地縁団体の情報を共有し協力することで、つながっていく木花をめざします。 以上を意識し活動を行っています。														
目的 (期待される効果)	1 まちづくり推進委員会各部の活動のほか、地域協議会や各種団体、学校などの行事や活動、各種イベントなどをまとめた広報誌の発行。 2 時代のニーズに合わせ、SNS（South Coast 情報ひろば）で情報発信し本郷、青島地域との連携を期待し、各部の活動報告及びイベント等も広報する。														
事業内容・手段	1 広報誌の発行・・・ (1) 発行時期：年2回。4月、10月 (2) 内容 ・年間を通して開催される各種行事、イベントを調査しその活動内容や活動実績をまとめた広報誌の発行。 ・地域協議会、地区社協との合同広報誌の発行。 2 SNSへの投稿と管理 内容 登録者が800名を超えた。地域内で名所10箇所にQRコード活用によるポイント獲得キャンペーンを実施するなどイベントを展開した。また、青島、本郷まち推と合同で情報発信エリアを拡大し情報の品質向上に務めた。 来年度より「South Coast 情報ひろば」として合同運営する。														
事業費	535,710円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>520人</td><td>888人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>50人</td><td>50人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>570人</td><td>938人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	520人	888人	スタッフ	50人	50人	合 計	570人	938人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	520人	888人													
スタッフ	50人	50人													
合 計	570人	938人													
住民の声（アンケートの結果等）	・ 広報誌「このはな17号」は、SNSの登録呼掛け、加江田1区の観光資源を紹介、木花青島地区地域包括支援センター、市木花児童センターと連携し記事を書かせました。「このはな18号」では、加江田川関わりの特集を行い情報が多くなったと高評価をえました。まち推の活動に興味を沸いた。との声を頂いた。														

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	各団体への聞き取りを先行してから掲載しているのを、把握している。		広報	⑤事業の周知	A	B	広報誌とSNSの関わり合いを機能させ実行している。
	②住民の参加	B	B	参加を促すよう募集事項を含んで進めている。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	多方面からの意見集約ができる環境構築がキー。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	住民に知らせ、興味を持っていただく事業です。継続させて効果が発揮し妥当です。				⑦住民の満足度	B	B
	④各種団体との連携	A	B	地域全体の融合、付近の地区の巻き込みを行い、注目度を上げたい。宮大学生からイベント紹介に利用したい依頼があり。						有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>								
		・「木花の情報ひろば」を「South Coast 情報ひろば」に名称変更し情報範囲拡大を図った。 ・情報発信に注力しているが、情報の交差ができるとどんな効果を得られるか？研究中								
		<地域協議会からの意見（令和7/3 実績報告）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								
		<地域協議会からの意見（令和年月・）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[企画・広報部会]

事業名	木花の健康フェスタ	実施年数	1年目												
事業期間	開始：2024年度	終了：継続													
地域魅力発信 プランとの関連	人をテーマに、人が育ちつながるまちづくりを掲げて ★スポーツに親しむまち・・・ スポーツに親しみ、健康、体力づくりをしていく元気な木花を目指します。 ★女性力を活かし輝くまち・・・ 女性がさらにいきいきと活動し、より輝いていく木花を目指します。 以上を意識し活動を行っています。														
目的 (期待される効果)	1 木花の健康フェスタを通して木花地域住民の交流と親睦を図ると共に相互理解と協力・協調の意識を育て、明るく活力のある地域づくりに寄与する。 2 木花地域まちづくり推進委員会各部会内容の提示などにより、活動状況や内容を理解してもらい、参加を促す場をつくる。 3 地域住民の絆を築き、安心して住める明るく楽しい健康的なまちづくりを目指す。														
事業内容・手段	『木花の健康フェスタ』を実施 時期：令和6年10月6日（日）開催 場所：学園木花台小学校グラウンド 内容：体育祭＋文化交流活動＋健康測定コーナー＋まち推事業活動実演＋自主交流活動披露などを混合させ娯楽性を上げながら健康測定体験を行うこととした。 運営方法： まち推を中核とし、自治会と宮崎大学生のボランティアの協力で前日の準備から実施しました。														
事業費	696,780円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>約200名</td><td></td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>約120名</td><td></td></tr><tr><td>合 計</td><td>320名</td><td>0人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	約200名		スタッフ	約120名		合 計	320名	0人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	約200名														
スタッフ	約120名														
合 計	320名	0人													
住民の声（アンケートの結果等）	アンケートを実施し122名から回答。 参加しての感想は120名が良かった。来年度は101名のリピーターがあった。 詳細を集計し振り返りとして役員会に報告し、次年度の実施に役立てる。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	—	初回なのでまずは、見越して開催しアンケートで反響を見次年度の展開に結び付けたい。	広報	⑤事業の周知	A	—	SNSでの告知と自治会の回覧など複数の方法で実施。ボランティアの協力であり効果あり。
	②住民の参加	A	—	天候が悪い中、子供連れの参加が多かった。飛び込み参加イベントに積極的であった。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	—
効果的・組・率・率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	—	地域発信プランとの連携が取れているので妥当。			⑦住民の満足度	A	—
	④各種団体との連携	A	—	宮崎市スポーツ協会、県警本部、自主公民館活動サークル、民芸団体、フラチームと多彩であった。今後増えそうだ。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 従来の体育祭開催への拒否反応から事業内容の見直しにかかった。健康にフォーカスする事に気づくまでは苦労した。継続参加への仕掛けで健康測定の日数を分析し計測年齢算出して返信したので来年に繋げると感じている。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和年月・）>						対応	未・済
		<意見への対応>							
								対応	未・済
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・）>							
		<意見への対応>							
※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。									

[事務局]

事業名	地域まちづくり支援事業	実施年数	8年目												
事業期間	開始：2017年度	終了：継続													
地域魅力発信プランとの関連	ひとをテーマに人が育ちつながるまちづくりを掲げて ★人材（財）が活きるまち・・・ 得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でOKです。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。 ★地域の催しを応援するまち・・・ 催しを地域全体で応援することは、人材を育成することにもつながります。子供から高齢者まで誰もが楽しめる地域の催しを応援していく木花を目指します。 ★情報を共有するまち・・・ 木花地区自治会連合会、その他各種地縁団体が情報を共有し協力することで、つながっていく木花を目指します。 以上を意識し活動を行っています。														
目的 (期待される効果)	まちづくり推進委員会、全ての部会及び事務局運営の効率化を推進するとともに、まちづくり推進委員会の専用車の適切な活用を図る。														
事業内容・手段	(1) まちづくり推進委員会各部会の円滑な運営を行うための支援 (2) まちづくり推進委員会の運営に必要な物品の確保と充実化 (3) 青色ランプ防犯パトロール隊に関する支援 (4) まちづくり専用車の積極的活用 (5) 借用施設の適切な維持管理 (6) まちづくり推進委員会の事務局運営														
事業費	844,055円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>スタッフ</td><td></td><td></td></tr><tr><td>合 計</td><td>0人</td><td>0人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者			スタッフ			合 計	0人	0人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者															
スタッフ															
合 計	0人	0人													
住民の声（アンケートの結果等）	・実施初年度の『木花の健康フェスタ』に参加し、人が集う楽しさを実感しました。来年度は、ボランティアとして参加してみたい。この声は非常に皆の励みに繋がりました。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） （1）事務局の運営に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域の団体とまちづくりの部会に積極的に関わり人間関係構築に努めた	広報	⑤事業の周知	A	B	各部会の事業以外に地域の活動をSNS・チラシ・回覧・ポスター掲示で周知し、住民へ参加を促した。
	②住民の参加	A	B	事務局から、事業内容を紹介し活動低下にならないよう応援した。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	企画広報部会に参加し積極的応援するよう努めた。、必要に応じて外部との共催を持ち掛けた。
効果的・組み率の取	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	活動の内容を把握し、部会間の連携を行い相乗効果を生み出している。		⑦住民の満足度	B	B	まずは、SNS活用を実践し有効活用になるよう努めた。
	④各種団体との連携	A	A	地域内の施設の紹介や地域団体の紹介を行い広報誌を活用した。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		・青島地域まちづくり推進委員会、本郷まちづくり推進委員会と情報交換を積極的に行い、SNSの情報発信に巻き込む方向で動き情報の相互交流の可能性を検討する事も重要と提案し検討に入った。 ・地域の名所・旧跡のある説明板に動画、音声での説明を聞けるようにユーチューブを作成しQRシールを各所に貼った。（14カ所）							

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） （2）青色パトロールの運営に関して

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民づくりのまち	①地域ニーズの把握	A	A	各種団体、小中学校の下校時刻などの情報連携も取れている。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	B	B	青色パトロール隊員の募集を行いながら、活動内容を可視化しよう活動したい。	
	②住民の参加	B	B	活動内容の周知を各種団体に行い募集を依頼することが重要			⑥課題解決への作用	A	A	存在を認知していただきながら活動を推進させる。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	安全・安心して住み続ける環境作りである点で妥当と言える。				⑦住民の満足度	A	A	満足度測定評価は難しいが、マイナス評価がない点で良しとしたい。
	④各種団体との連携	B	B	青色パトロールの存在意義を伝え協働提案をすすめていきたい。		事業継続の必要性					有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>									
		小中学校の下校時間に重なる青パト隊には、出動時刻の調整をお願いした。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和6年3月/事業実施報告）>							対応	未・済	
		・報告書の記入の仕方について、活動への参加人数や回数は、1年間の合計のみではなく各活動毎に明記して欲しい。									
		<意見への対応>									
		・各部会毎の表現方法にばらつきがあることは、認識しています。来年度からは、平滑化できるように準備完了しています。							対応	未・済	
		<意見への対応>									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区

木花地域まちづくり推進委員会

事業名	安全推進事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	503,000	
2	繰越金	772,000	
3	負担金		
4	合計 (A)	1,275,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	9,000	・ 小・中学校防災研修講師謝礼 9,000 (3,000円×3名)
3	旅費		
4	需用費	110,215	<u>消耗品費 86,746円</u> ・ 木花中学校救命救急法講習会 (三角巾110枚代) 27,940 (心肺蘇生人口呼吸用キューマスク100個代) 27,500 ・ 現況図代 (250円×4枚) 1,000 ・ 防災標語募集活動賞品 ・ ノート代他 23,146 ・ わくわく自然の家まつり (ブルーシート代) 7,160 <u>賄材料費 18,765円</u> ・ 木花中防災食実習材料代 (米、水他) 18,765 <u>食糧費 4,704円</u> ・ わくわく自然の家まつり お茶代 4,704
5	役務費	550	振込手数料 550
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	705,100	・ 応急手当指導活用資機材 AED、人形購入 205,700 ・ 避難所資機材購入費 (避難時用シェルター、簡易トイレ、ワンタッチルームテント) 499,400
11	積立金		
12	合計 (B)	824,865	

収支差額 (A) - (B)	450,135
----------------	---------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	福祉まちづくり事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	93,000	
2	繰越金		
3	負担金		
4	合計（A）	93,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	9,000	・いきいき健康セミナー講師謝礼（2回分） 6,000 ・園児との楽笑会講師謝礼 3,000
3	旅費		
4	需用費	61,226	食糧費 33,276円 ・いきいき健康セミナーお茶代 2,352 ・認知症見守り模擬訓練お茶代 2,352 ・ノルディックウォーキング時お弁当代 5,500 ・生きがい支援活動お菓子代 2,640 ・生きがい支援活動たこやき代（500円×30食） 15,000 ・園児との楽笑会 お茶・菓子代 5,432 消耗品費 2,750円 ・園児との楽笑会 材料代 2,750 印刷費 25,200円 ・ノルディックウォーキングチラシ印刷代 25,200
5	役務費	552	ノルディックウォーキング保険料（2回分） 552
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	3,000	ノルディックウォーキング時駐車場使用料（300円×10台分） 3,000
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計（B）	73,778	

収支差額（A）－（B）	19,222
-------------	--------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	環境整備事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	202,600	
2	繰越金	130,000	
3	負担金		
4	合計 (A)	332,600	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	243,638	<u>消耗品費 213,727円</u> ・コスモス、ひまわり種子 115,600 ・鮎稚魚 66,000 ・鮎放流場所整備時用具他代 14,619 ・農作業用具代 17,508 <u>食糧費 29,911円</u> ・里山整備時のお茶・弁当代 26,023 ・コスモス種まきお茶代 3,888
5	役務費	2,286	保険料 2,286
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	245,924	

収支差額 (A) - (B)	86,676
----------------	--------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	地域活性化事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	115,000	
2	繰越金	100,000	
3	負担金	37,000	トマト加工体験教室、フラワーアレンジメント教室参加料 (1,000円×37名)
		28,000	フラワーアレンジメント教室参加料 (1,000円×28名)
4	合計 (A)	280,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	12,000	加江田溪谷散策ガイド謝礼 (3,000円×4名) 12,000
3	旅費		
4	需用費	214,551	消耗品費 214,551円 ・ トマト加工、フラワーアレンジメント材料 152,326 ・ えれこっちゃん・ド鏡洲材料代 43,229 ・ フォトコンテスト賞品代 (4名分) 13,380 ・ ウッドアート材料代 5,616
5	役務費	240	保険料 240
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	3,720	・ トマト加工会場使用料 3,720
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	230,511	

収支差額 (A) - (B)	49,489
----------------	--------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	伝統文化継承事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	60,000	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計 (A)	60,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	3,060	消耗品費 1,480円 ・ 替刃代 燃料費 1,580円 ・刈払機混合油代
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	3,060	

収支差額 (A) - (B)	56,940
----------------	--------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	伝統芸能伝承事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	26,000	
2	繰越金	100,000	
3	負担金		
4	合計 (A)	126,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	69,308	消耗品費 69,308円 ・ 下原雨太鼓法被代 61,600 ・ 下原雨太鼓譜面台材料代 7,708
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	69,308	

収支差額 (A) - (B)	56,692
----------------	--------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	木花地区ガイドマップツアー事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	91,000	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計 (A)	91,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	12,000	・音声ガイド音入れ謝礼として (6,000円×2時間×1名) 12,000
3	旅費		
4	需用費	10,000	消耗品費 10,000円 ・チラシ作成費用 10,000
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	22,000	

収支差額 (A) - (B)	69,000
----------------	--------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	広報事業
-----	------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	101,000	
2	繰越金	400,000	
3	負担金	137,280	LINE公式アカウント使用料（本郷まち推負担分）68,640円 LINE公式アカウント使用料（青島まち推負担分）68,640円
4	合計（A）	638,280	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	307,790	印刷費 307,790円 ・まちづくり広報誌 149,550 （年2回発行） 140,640 ・LINEチラシ印刷代 17,600
5	役務費	7,920	振込手数料 7,920
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	220,000	・LINE公式アカウント使用料 220,000
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計（B）	535,710	

収支差額（A）－（B）	102,570
-------------	---------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区

木花地域まちづくり推進委員会

事業名	木花の健康フェスタ
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	1,237,000	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計 (A)	1,237,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	28,000	・ 駐車場整理謝礼 (3,000円×5名) 15,000 ・ 音響設備借用謝礼 3,000 ・ 相撲踊り出演謝礼 5,000 ・ 木花音頭出演謝礼 5,000
3	旅費		
4	需用費	500,920	消耗品費 405,275円 ・ 参加者景品 (ヨーグルッペ、スコール他) 33,608 ・ 参加者景品 (せんぐまき用お菓子、ヨーグルッペ) 13,504 ・ 参加者景品 (せんぐまき用お菓子他) 5,535 ・ 参加者景品 (マヨネーズ、プリッツ、台所洗剤) 87,640 ・ 参加者景品 (お茶代) 24,432 ・ 材料費 (木材、ホイッスル他) 33,040 ・ 材料費 (VRゴーグル) 3,636 ・ 材料費 (相撲踊り蛇の目傘) 192,000 ・ 材料費 (せんぐまき餅) 11,880 印刷費 45,100円 チラシ印刷代 (3,000部) 45,100 食糧費 50,545円 実行委員会お茶代 3,792 スタッフ弁当代 (78個) 46,753
5	役務費	11,660	郵送料 330 振込手数料 1,430 保険料 (300人対象) 9,900
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	156,200	リース料 156,200円 テント、砂袋、冷却用ストッカー他 156,200
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	696,780	

収支差額 (A) - (B)	540,220
----------------	---------

令和6年度 事業別収支計算書

木花地域自治区
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	地域まちづくり支援事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	478,400	
2	繰越金	540,938	
3	負担金		
4	雑収入	1,355	銀行利息
5	合計 (A)	1,020,693	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費	97,000	<u>活動経費 97,000円</u> ・ 3,000円×6名 (役員) 18,000 ・ 32名分 (部会員) 79,000
4	需用費	260,174	<u>燃料費 64,821円</u> ・ まちづくり車燃料代 64,821 <u>消耗品費 139,535円</u> ・ コピー用紙、インク、封筒他 104,385 ・ 外付けハードディスク代 21,736 ・ 青パットのぼり旗代 (2枚) 1,200 ・ 青パト用ベスト代 4,653 ・ 駅舎掃除道具代 7,561 <u>印刷費 35,200円</u> ・ 事務局員募集チラシ印刷代 35,200 <u>食糧費 15,618円</u> ・ 部会用お茶代 15,618 <u>修繕費 5,000円</u> ・ 避難誘導看板移設費用 5,000
5	役務費	19,158	・ クリーニング費 18,608 (まちづくりベスト、防寒着) ・ 振込手数料 550
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	467,723	・ まちづくり車リース料 422,400 (35,200円×12ヶ月) ・ 会議出席時駐車場代 400 ・ コピー機使用料 44,923
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	844,055	

収支差額 (A) - (B)	176,638
----------------	---------

(様式第 9 号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和 7 年 4 月 21 日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大字熊野 591
名 称	木花地域まちづくり推進委員会
代 表 者 の 氏 名	奥 正幸
電 話 番 号	0985-58-0044

令和 6 年 5 月 10 日付けで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金につきましては、決算において、1,607,582 円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添付書類

令和 6 年度収支決算書

令和6年度 木花地域まちづくり推進委員会への意見書〔事業実施報告〕

令和7年3月18日
木花地域自治区地域協議会
会長 大神 博

令和6年度の木花地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算見込について、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていきましたので、承認いたします。なお、承認に際し、下記の意見がありましたので、対応を検討いただきますようお願いいたします。

1. 総括

新しい体制作りと並行しながらの事業遂行で労苦が多かったと推察されますが、継続事業を中心に新規事業にも取り組まれたことは大いに評価します。

2. 事業の推進体制

まちづくり推進プラン「きばなのきずな」に従って今後も活動していただきたい

3. 各事業への意見（意見のある事業のみ記載）

部会名	意見
安全推進事業	・一時避難場所の周知について早急に実施してほしい

4. その他